

1 I am a youth — 「私」は「青年」である(青年心理学)

問1 青年期の発達課題として**適当でないもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。
(2010年追試)

- ① 両親や他の大人からの精神的自立
- ② 自分自身の人生目標の設定
- ③ 職業の選択と職業生活への準備
- ④ 行動の基盤となる価値観の形成
- ⑤ 他者への基本的信頼感の獲得

問2 発達課題についての記述として**最も適当なもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。
(1998年本試)

- ① 人間の発達において青年期は大きな意味をもっているが、青年期の発達課題を達成できるかどうかは生まれつきほぼ決まっている。
- ② 人間の一生には様々な発達課題があるが、達成すべき発達課題は個人ごとに異なっていて、共通性がない。
- ③ 人間は発達課題の達成に失敗することも時にはあるが、それぞれの段階での危機的状況を克服しながら人格的に成熟していく。
- ④ 人間の発達は一生継続くものであるが、それぞれの時期で達成すべき発達課題の間には関連性がほとんどない。

問3 社会のなかでの青年期の自己形成に関する記述として**最も適当なもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。(2002年追試)

- ① 若者たちのアイデンティティの形成には、アニメやロックミュージックなどのようなサブカルチャーが影響を与えている。
- ② 若者たちの性別に関する帰属意識は、生物学的に決定されて成立するので、社会的な形成過程は関係しない。
- ③ 若者たちのパーソナリティは、遺伝にはよらず、既成の社会規範やルールを習

得する社会化の過程によって決定される。

- ④ 若者たちの自我の確立の時期は、第二次的徴の発現が低年齢化するにつれて、次第に早まる傾向が見られる。

問4 文章中の A に入れるのに**最も適当なもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。
(2003年本試)

晩婚化と未婚率の上昇にはいくつかの理由が考えられる。まず、社会の複雑化と平均寿命の延びに伴い、ライフサイクルが大きく変化している。例えば、A。また、自分らしさの追求や自己実現に価値をおく個人主義が高まり、自分の現在のライフスタイルを変えたくない、家族扶養の責任のない気楽さや生き方の自由を失いたくないという態度が強くなっている。

- ① 青年のナルシズム傾向が顕著になってきた
- ② ユース・カルチャーの重要性が増してきた
- ③ モラトリアムとしての青年期が長くなってきた
- ④ ギャング・エイジの発現時期が低年齢化してきた

問5 わが国における最近のライフサイクル(人の一生)の特徴についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。(1998年本試)

- ① 女性の高学歴化による就労意欲の増大などにより、女性の社会進出がめざましく、結婚後も職業を持ち続ける女性が増えてきている。
- ② 知識や技術の高度化や人々の生き方の多様化により、青年が自らの生き方を模索する期間としての青年期が延長されてきている。
- ③ 社会の高齢化に伴い、定年制が廃止され、高齢者でもずっと働き続けることができるようになってきている。
- ④ 平均寿命が長くなったのに伴い、子育てを終えて子どもが独立した後の夫婦の生き方が大きな問題になっている。

2 青年期の特徴

問6 青年期の自己発見に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2000年本試)

- ① 自分が何者であるのかわからないという「アイデンティティの危機」は、自我を確立すべき青年期に特有の現象であり、他の時期には見られない。
- ② 「第二性徴」という身体的特徴が現れる時期になると、セルフ・イメージの形成がそれまで以上にセクシュアリティと密接に関係するようになる。
- ③ 実社会に参加して社会人としての義務や責任を負うことを心理的・社会的に猶予される「モラトリアム」は、人類の歴史上普遍的な現象である。
- ④ 「イニシエーション(通過儀礼)」を経て集団の成員となることは、一種のマインド・コントロールを受けることであり、自己発見とは相いれない。

問7 周囲の他者との関係が変化する青年期に関連した特徴の一つに心理的離乳がある。その説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2012年追試)

- ① 青年期の急激な身体の成長を契機に、女性や男性としての成熟した自己像を形成し始めること
- ② 青年が子どもとして扱われながらも、大人として責任を課される立場になっていくこと
- ③ 経済的な自立は困難であるものの、家族との^{かか}関わり方を見直し、自分の意志で行動し始めること
- ④ 自己中心的な思考から脱却し、他者の立場から冷静に物事をみられるようになること

問8 次のア～カには、人がその成長のなかで経験する様々な状態があげられている。それらのうち、青年期に経験することの多いものの組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。(2009年追試)

ア モラトリアム イ 脱中心化 ウ 孤独感 エ 基本的信頼
オ 心理的離乳 カ 第一反抗期

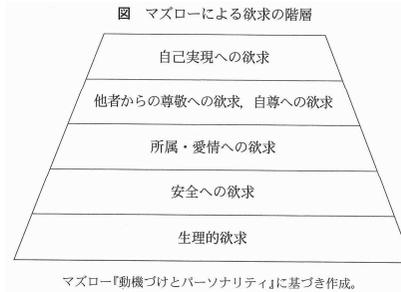
- | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | イ | カ | ② | イ | ウ | エ | ③ | ウ | エ | オ |
| ④ | イ | ウ | カ | ⑤ | ア | ウ | オ | ⑥ | ア | エ | カ |

問9 青年期の課題の解決を回避あるいは先延ばしするような人々の状態は一般的にモラトリアムと言われるが、その心理的・行動的特徴を具体的に記述しているものとして適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2006年追試)

- ① 壮大な理想を語るけれども、自らの現実を省みることがない。
- ② 明確な目的をもたずに大学に進学し、勉強もせずに漫然と過している。
- ③ 昔からの家業の跡継ぎを強いる親に反発し、ベンチャー企業に就職する。
- ④ フリーターをしながら、あれこれボランティア活動を試みている。

3 欲求と適応

問 1 0 次の図はマズローが欲求の階層的構造に着目して提唱した理論の内容を表している。図に示されているマズローの理論では、下位にある欲求が満たされて初めて、その上位にある欲求が喚起される。この理論から言えることとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。(2010年追試)



- ① 安全が確保されていないような状況であったとしても、自己実現への欲求を高めるとことは十分に可能である。
- ② 愛情に満たされた関係性のなかで生きていたいという欲求は、飢えや渴きを満たしたいという欲求と同じくらい基本的な欲求である。
- ③ 自尊の感情を高めるように他者に働きかければ、所属・愛情への欲求や、安全への欲求、生理的欲求も同時に満たされる。
- ④ 周りの人たちから認められたいという気持ちが満たされることは、自己実現への欲求の基礎となっている。

問 1 1 【難】マズローは、生理的欲求、安全欲求、所属と愛情の欲求、自尊欲求、そして最高位にある自己実現欲求の順で欲求が階層をなし、低次の欲求が満たされてはじめて高次の欲求が生じると考えた。文章中の□1に入れるのにふさわしい欲求のうち最も低次のものとして適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2007年追試)

近年、「ハラスメント」という枠組みで、異性間、クラスや同学年の仲間同士、先輩・後

輩の間などでも生じる人間関係の深刻な問題を捉えようとする考え方がある。ハラスメントを受けると、人に対する信頼感の喪失、意欲の喪失、感情への悪影響、注意集中能力や思考能力の低下などが生じる。これは、マズローの欲求階層説における□1の欲求が脅かされた状況である。

- ① 安全
- ② 所属と愛情
- ③ 自尊
- ④ 自己実現

問 1 2 葛藤が生じるのは、複数の互いに相容れない欲求が等しい強さで同時に生じている場合である。葛藤の基本的な型には、(A)接近したい二つの欲求対象の狭間で生じる葛藤、(B)回避したい二つの欲求対象の狭間で生じる葛藤、(C)一つの対象に対して接近と回避の相反する欲求が生じる葛藤の三つがある。次のア～エに示す具体例は、それぞれ、A～Cのどの葛藤と考えられるか。その組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。(2006年追試)

- ア 体重を気にしている甘党のMさんは、友達のくれたケーキを食べようかどうか迷っている。
- イ 運動好きのNさんは野球部と卓球部から入部を誘われ、どちらにするか迷っている。
- ウ 歯痛で困っているOさんは治療が怖いので、歯医者に行くかどうか迷っている。
- エ 自分の行きたい大学への進学をなかなか親が認めてくれないことにPさんはいらだっている。

- ① A-ア B-エ C-ウ
- ② A-ア B-イ C-エ
- ③ A-イ B-ウ C-エ
- ④ A-イ B-ウ C-ア
- ⑤ A-ウ B-イ C-ア
- ⑥ A-ウ B-ア C-イ

問 1 3 レヴィンらによる葛藤の4類型A～Dと、日常生活での葛藤場面ア～エとの組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。(2011年本試)

- A 接近—接近の葛藤：叶えたいと思う複数の対象が同時に存在し、すべてを叶えることはできない場合に起こる葛藤
- B 回避—回避の葛藤：避けたいと思う複数の対象が同時に存在し、すべてを避けることはできない場合に起こる葛藤
- C 接近—回避の葛藤：一つの対象に叶えたい要素と避けたい要素とが併存している場合に起こる葛藤
- D 二重接近—回避の葛藤：二つの対象が同時に存在し、そのおのおのに叶えたい要素と避けたい要素とが併存する場合の葛藤

- ア 密かに思いを寄せていた人と友人が結婚することになり、スピーチを頼まれて断りたいが、友人に不審がられそうで、断るに断れず悩んでいる。
- イ 第一志望の学部はあるが遠隔地のため親が反対するA大学と、地元にあるが第一志望の学部のないB大学と、どちらを受験しようか悩んでいる。
- ウ 雇用条件が良く安定した会社の入社試験と、もともと入りたかった劇団のオーディションと、どちらを受けるべきか悩んでいる。
- エ 憧れの先輩がいるクラブに入部しようと思っていたが、練習がとても厳しく時間も長いと聞き、入部すべきかどうか悩んでいる。

- ① アーC イーA ウーB エーD ② アーB イーA ウーD エーC
- ③ アーD イーC ウーA エーB ④ アーA イーC ウーB エーD
- ⑤ アーB イーD ウーA エーC ⑥ アーA イーD ウーC エーB

問 1 4 青年期には様々な問題に直面し、ストレスを抱えることがある。このようなストレス場面において人はいくつかの対処方法を取ることが知られている。次のA～Cの対処方法と、具体例ア～オとの組合せとして正しいものを、次ページの①～⑧のうちから一つ選べ。(2011年追試)

- A 課題志向型：直面する問題それ自体に焦点を当てて、それを現実的な側面から変えることを志向し、将来同じような問題が生じることを防ごうとする対処法
- B 情動志向型：直面する問題は変えられないとしても、自らの情動のあり方を制御することを志向し、心理的な側面に焦点を当てて問題を解消しようとする対処法
- C 回避志向型：直面する問題自体に焦点を当てることも、自らの情動を制御することも志向せず、現実的にも心理的にもその解決から逃避しようとする対処法

- ア 私の家の経済状態では大学進学を諦めるしかないと悩んでいた。しかし、担任に相談したところ、入試の成績次第で学費免除になることや特待生制度のことを聞き、進学を目指して猛烈に勉強することにした。
- イ 友だち同士が大げんかの末、絶交してしまった。双方から意見を求められ、仲介を頼まれたが、巻き込まれるのも面倒なので、成り行きに任せることにした。
- ウ 交通事故で大怪我をしてしまい、サッカーを続けるのは難しいと医者から言われ、生きる目的を失いかけた。しかし、再起を図るために最新医療の情報を集めたり、リハビリにも工夫を凝らしたりすることにした。
- エ 病弱なため欠席が多く、担任から「このままだと単位が不足して進級できない」と言われた。そこで、医師とも相談しながら必要な単位を修得できるような学習計画を立てることにした。
- オ ずっと好きで長く交際していた人と別れてしまった。苦しくて仕方がなかったが、受験勉強に集中することで悲しみを乗り越えようとした。

- ①アーA イーC ウーB エーC オーA ②アーB イーA ウーA エーB オーC

- ③ア—A イ—C ウ—A エ—A オ—B ④ア—C イ—B ウ—B エ—C オ—A
 ⑤ア—A イ—B ウ—C エ—B オ—B ⑥ア—B イ—C ウ—A エ—A オ—A
 ⑦ア—C イ—A ウ—B エ—A オ—A ⑧ア—A イ—B ウ—B エ—C オ—B

問15 防衛機制の種類とその説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2010年本試)

- ① 抑 圧：自身で認め難い自らの観念や欲求が、自分には無いかのように思い込んで
 いること
 ② 投 影：身近な他者が抱いている欲求を、あたかも自分自身のものとして映し
 だすこと
 ③ 代 償：攻撃性や性的な衝動などの欲求を、社会的に価値ある活動への欲求に
 転化すること
 ④ 合理化：合理的な判断によって、適切な問題解決に向けて自分自身を導いてい
 くこと

問16 理想が実現できないときに葛藤^{かっとう}や不満が生じる。それらから心を守ろうとする無意識的な働きとして防衛機制というものがある。そのうち、合理化と昇華の例として最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。(2005年本試)

- ① 留学することをあきらめたAさんは、「グローバル化が進んでいるので、留学なんてどんどん意味がなくなってくるよ」と言っている。
 ② 自分に対する先輩からの扱いを不満に感じているBさんは、厳しく後輩を指導する同級生を見て強い怒りを感じる。
 ③ 人から批判されるのではないかとびくびくしているCさんは、いつも大きな声で攻撃的なしゃべり方をしている。
 ④ 就職活動がうまくいっていない大学生のDさんは、3～4歳のころに大好きだ

った絵本を繰り返して眺めている。

- ⑤ 小さいころに深刻ないじめにあっていたEさんは、しかし現在そのことをまったく覚えていない。
 ⑥ 失恋した高校生のFさんは、広く社会に関心に向けて、ボランティア活動に打ち込んだ。

問17 「どうせ、もともとあそこのお芝居にはあまり興味なかったの」という言葉は、自分がオーディションに落ちたという辛い^{つら}現実を直視する苦痛を避けるために述べられたものである。このような防衛機制を表す概念として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2001年追試)

- ① 昇華 ② 反動形成 ③ 合理化 ④ 同一化

問18 葛藤に対して自我を守るための心理学的な防衛機制(防衛反応)の一つである「反動形成」の例として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。(2003年本試)

- ① 臆病^{おくびょう}な人が強気な態度をとったりむやみに威張ったりする。
 ② 大人がまるで小さい子どものように泣いたり叫んだりする。
 ③ 強い偏見の持ち主が、他人が偏見をもっていると非難する。
 ④ アニメの主人公に強くあこがれ、行動や服装のまねをする。
 ⑤ 実力がなくて試合に負けたのに、体調が悪かったせいだと思ふ。

4 パーソナリティ

問19 様々な研究者がこれまで唱えてきた性格の分類や特徴についての記述として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2012年本試)

- ① リースマンは、他人の行動に照準を合わせて自己の行動を決定する性格を他人指向(志向)型と呼んだが、現代の大衆社会では、こうしたタイプはほとんど見られなくなったと主張した。
- ② クレッチマーは、性格と体型の関連を指摘し、リビドーが自己の内側に向きやすい分裂気質は肥満型に多く、リビドーが外界に向きやすい循環気質は細長型に多いと主張した。
- ③ シュプランガーは、人々の生活を方向づける様々な価値観を整理して、理論型、経済型、審美型、社会型、権力(政治)型、宗教型という六つの性格類型を主張した。
- ④ オルポートは、自己感覚の拡大、温かい人間関係の構築、情緒の安定、自己の客観視、人生哲学の獲得から構成される性格5因子(ビッグファイブ)理論を主張した。

問20 人間形成をめぐる、多くの人々が様々な考えを提出している。そのうち、レヴィン、マズロー、ユングの考えとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。(2004年追試)

- ① 人間形成が十全になされるには、欲求の健全な充足を目指さなければならないが、欲求には、睡眠や飲食などの単に生理的なものだけでなく、その上位に位置づけられる、愛情や集団への帰属意識などの精神的欲求もある。
- ② 人間の心には無意識の領域があり、個人的なものと集合的なものがある。集合的無意識は個人的無意識よりも深い層にあり、そこには、元型という神話的な性

格を帯びた普遍的イメージが生まれながらに備わっている。

- ③ 人生には、誕生から死に至るまで8段階の周期(ライフサイクル)があり、時間とともに自我は発達していくと考えられる。それぞれの段階には達成すべき課題があるが、その達成度が人の発達状況の目安となっている。
- ④ 人は青年期において自我に目覚め、精神としての自己という内面的世界を発見する。これは、いわば第二の誕生であり、第一の誕生が存在するための誕生であるとすれば、第二の誕生は生きるための誕生である。
- ⑤ 子どもは小さな大人ではなく、子ども独自の世界がある。しかしながら、子どもの認識能力は一定の段階を経て発達し、自己中心的だった段階を脱すると、他者を意識するようになり、客観的な判断もできるようになる。
- ⑥ 人が自分の行動を選択する場合、その人の所属する集団の価値観から強い影響を受けるが、生活空間が大きく変化する青年期においては、子どもの集団にも大人の集団にも属することができず、中途半端な状態に陥る。

問21 人間関係のあり方に関連する様々な用語の説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2008年追試)

- ① 外向型(外向性):フロイトによって分類された性格類型で、心のエネルギーが外に向かいやすいため、他者に関心を持ち、陽気かつ社交的で交際範囲が広い性格
- ② やまあらしのジレンマ:他者と距離が遠すぎると孤独になり、近すぎても摩擦や衝突を起こすなど、他者との適度な距離を保とうとすることによって起こる人間関係の葛藤

- ③ 他人指向型：リースマンによって名づけられた性格類型で、大衆社会における孤独と不安から、他者による承認を強く求め、その評価基準に身を委ねて他者に従う性格
- ④ 仮面をかぶった人間関係：自分が傷つくことをおそれるあまり、本音を隠して偽りの仮面をかぶり、他者に過度に同調することで表面的になってしまう人間関係

問22 次のア～エは、自我・自己・個性の形成と社会や他者との関わりについての考え方を説明したものである。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。(2013年本試)

- ア マズローは、自己実現に至る欲求の五つの階層のなかで、身体の安全を求める欲求より上位に、他者に認められたい欲求をおいた。
- イ フィヒテは、自己を伝統的な価値や社会の通念への従属から解放して、自由な価値創造の主体として肯定する意志を、力への意志と名づけた。
- ウ マーガレット・ミードは、サモア島などでの調査から、歴史的・地域的な状況が個性の形成に大きく影響すると考えた。
- エ ユングは、個人の社会的経験を通じて後天的に身についた集合的無意識と自我の関連を、神話や伝説の分析を通して指摘した。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|----|----|----|---|----|----|----|----|
| ① | ア正 | イ正 | ウ誤 | エ正 | ② | ア正 | イ正 | ウ誤 | エ誤 |
| ③ | ア正 | イ誤 | ウ正 | エ正 | ④ | ア正 | イ誤 | ウ正 | エ誤 |
| ⑤ | ア誤 | イ正 | ウ誤 | エ正 | ⑥ | ア誤 | イ正 | ウ誤 | エ誤 |
| ⑦ | ア誤 | イ誤 | ウ正 | エ正 | ⑧ | ア誤 | イ誤 | ウ正 | エ誤 |

問23 友人関係に関連して、次の文章を読み、現代日本の青年が抱えるヤマアラシのジレンマに合致する例として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。(2012

年追試)

ショーペンハウアーやフロイト、精神分析医のベラックによって取り上げられたヤマアラシのジレンマは、親密な者同士がさらに近づこうとすると逆に傷つけ合ってしまうという「近づきたいが離れたくない」という葛藤であった。しかし、友人関係の希薄化が指摘される日本の青年が抱えるヤマアラシのジレンマは、「近づきたいが近づきすぎたくない」、「離れたくないが離れすぎたくない」という二重の葛藤から成り、この二重のジレンマは相手との関係が深化する前の段階で生じている。青年たちは、相手と親密な関係を形成したいと願う一方で、互いに傷つけ合うことを恐れるあまり、関わりが深まる前から、自己の内部だけで適度な心理的距離を模索していると言える。

(藤井恭子「青年期の友人関係における山アラシ・ジレンマの分析」
『教育心理学研究』(2001年)により作成)

- ① 知り合って間もない相手と、つまらないことで口論になった。関係修復は難しいと思わないし、自分でもそうしたい。ただ、相手から謝ってきたらすぐに受け入れるつもりだが、自分から先に謝るつもりはない。
- ② 同じクラスになってよく話すようになった人がいる。その人とは考え方も似ていて理解し合えると思っているので、自分の悩みを相談したいが、それを打ち明けて、相手から面倒に思われるのは避けたい。
- ③ クラスが一緒でも全員と気が合うわけではないので、大半のクラスメイトとは、つかず離れずの関係になりがちだ。それはそれで、場の空気を読んだり、相手の反応を探ったりしなくてよいので、かえって気が楽だ。

- ④ 同じ部活動で意気投合した気の置けない友人がいる。多少厳しいことでも、気兼ねなく言い合える仲は今後も大切にしたいが、ときどき、親しさゆえの相手の無遠慮な言い方にひどく傷つけられることがある。

問24 心理学者のレヴィンジャーたちは、対人関係の段階を、関係の深さに応じて、無接触の段階(お互いに接触もなく、認知していない)から、深い相互作用の段階(相互の関係は確固たるものとなり、共通したコミュニケーション行動がとられる)までの六つの段階に分類している。次のA~Dは、それらのうち四つの段階の対人関係の深さを説明したものである。人間関係が深まっていく順序として最も適当なものを、下の①~⑤のうちから一つ選べ。(2009年追試)

- A お互いのことを知っているが、形式的なコミュニケーションにとどまっている。
B 相手は自分のことを知らないが、話しかければ対応してくれると期待している。
C お互いの態度や価値観などが類似し、共通の規範を形成するようになる。
D 相手に対する親密感が増し、自分の気持ちを次第に打ち明けようになる。

- ① D→B→A→C ② B→D→A→C ③ A→C→B→D
④ A→D→C→B ⑤ B→A→D→C

問25 孤独感を下の①~④の四類型に分ける考え方がある。これに基づくと、次の文章で描かれている人物はどのようなタイプの孤独感を感じていると考えられるか。最も適当なものを、下の①~④のうちから一つ選べ。(2008年追試)

A君は、恵まれた環境に育った17歳の高校生である。高校までは世間の流れに従って進学してきたが、卒業を目前にして、高校を卒業するということが自分にとって何の意味をもつのか分からなくなり、いらだっている。親は親の価値観からA君の人生を方向づけようとしているように感じられ、「お前のため」という親の言葉も常識の押しつけとしか思えない。周りの人が何の疑問ももたずにやっていること

が、A君には不可解に思え、自分の考えを明確な言葉にして表現しようと苦闘するが、それをうまく伝えられず、つい自暴自棄へと走る。しかし、そんなA君も大人社会から見ればわけの分からない反抗者でしかない。

- ①身近な人と理解・共感し合えていると考えるが、自分の個性に気づいていない。
②身近な人と理解・共感し合えていないと考えるが、かつ自分の個性に気づいていない。
③身近な人と理解・共感し合えていないと考えるが、自分の個性に気づいている。
④身近な人と理解・共感し合えていると考えるが、かつ自分の個性に気づいている。

問26 ^{あい}相容れない動機の板挟みとなるとき悩みが生じることがある。次の動機の対立A~Eと、具体例A~Dとの組合せとして最も適当なものを、下の①~④のうちから一つ選べ。(2007年本試)

- A 自立 対 依存
B 親密 対 孤独
C 協力 対 競争
D 衝動的表出 対 道徳的基準

- A 親友の身の上話を聞いているうちについ感情的になり、途中で席を立ってしまったが、終わりまで冷静に聞く必要があったと後から考え、悩む。
B 昼休みに友人の話の輪に加わり仲良くしたいと思うが、一人で好きな本を読みながらリラックスしたいとも思い、悩む。
C 難しい数学の問題が宿題に出て、独力で解くのが望ましいとは思いますが、勉強ができる友人に答えを聞く方が簡単であるとも思い、悩む。
D テストの直前に、自分が苦勞してまとめたノートを見せてくれとライバル関係にある友人に頼まれて、断ろうかどうかを考え、悩む。

- ① A-C I-A U-D E-B ② A-B I-A U-D E-C
③ A-D I-B U-C E-A ④ A-C I-B U-D E-A

5 社会化とアイデンティティの形成

問 2 7 社会化の定義として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(1998 年本試)

- ① 社会化とは、他人とくらべて自分が優れた人間であると思って自己満足することである。
- ② 社会化とは、マスコミが流す情報の影響を受けて、人々が互いに類似した行動や態度をとることである。
- ③ 社会化とは、ボランティア活動などの社会活動に参加し、社会に貢献しようとするすることである。
- ④ 社会化とは、社会の中の文化や規範を学び、そのメンバーとしての行動様式を身につけることである。

問 2 8 現代の精神分析学の立場から自己の問題を捉え直した思想家にエリクソンがいる。エリクソンの思想についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2003 年追試)

- ① 自己は単独に存在するのではなく、他人という鏡の中に像として映し出されることによって明確になっていく存在であると考えた。
- ② 自己の生の意味づけを通して、尊厳のある生き方を追求していくことに、人間として存在することの根源的な価値を見いだした。
- ③ 人間の心理的発達において、他人や社会との関係の中で自己中心性を脱却していく児童期を重要な段階として位置づけた。
- ④ 各人が自己の同一性を形成していく青年期を、全生涯にわたって人格的成熟を遂げていく上で重要な段階であると見なした。

問 2 9 「アイデンティティの確立」を青年期の発達課題として捉えた精神分析学者にエリクソンがいる。エリクソンの言う「アイデンティティ」についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2004 年追試)

- ① 人間は自らの在り方を追求する際に、ある対象の一面、あるいはいくつかの特性、場合によってはその全体を理想として自分に当てはめ、それと似た存在になる。
- ② 人間は、日常生活での様々な局面の変化を通じて、変わらぬ連続性と一貫性を保つ「私」の中核部分を持ち、同時にそれが共同体の他者に共有、承認されることを求める。
- ③ 人間は、社会生活を送る中で、自らの帰属する社会や共同体といった集団の規範に同一化することで、つねに整合的で矛盾のない行動の指針を得ることができる。
- ④ 人間は日常生活の中で、様々な役割としての社会的自己にその都度、その場限りで同一化することで、他者との関係においても安定した態度を取ることができる。

問 3 0 乳児から高齢者に至る発達過程を理論化したエリクソンの考えとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2013 年本試)

- ① 人間が自己を確立していく過程は人生において 8 段階あり、各段階には達成すべき心理的・社会的課題が設定されていると考えた。
- ② ライフサイクルのなかで、青年期の発達課題は他者に対する基本的信頼を獲得することにあり、それが自己肯定感の基盤になると考えた。

- ③ アイデンティティ確立後も、人は多くのことを学び、成長していくが、人にはそれを可能にしている一次的欲求があると考えた。
- ④ 成熟した人格の確立には、他者からの視点を意識しつつ、物事を客観的に捉える脱中心化が不可欠であると考えた。

問3 1 ライフサイクルについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2003年本試)

- ① ライフサイクルとは、身体の発達の過程に従い、人生を誕生から死に至るいくつかの重要な節目ごとに段階的に分類したものである。
- ② ライフサイクルにおいて、青年期は自発性の確立という発達課題を抱えた大切な段階である。
- ③ ライフサイクルにおいて、幼児期は他者に対する信頼感の形成が最も進む基本的な段階である。
- ④ ライフサイクルとは、それぞれの発達段階における他者や社会とのかかわりを重視しながら、課題を達成し成長を続ける、人の一生である。

問3 2 エリクソンは、人生を八つの発達段階に分けて、それぞれの特徴について記述している。そのうち次の青年期以降の四つの発達段階ア～エとその特徴A～Dとの組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。(2009年本試)

- ア 青年期
- イ プレ成人期(成人前期)
- ウ 成人期(成人中期)
- エ 老年期(成人後期)

- A これまで培ってきた自分自身に対する認識を基盤として、特定の人との友情、愛、性的親密さを得ることが求められる。
- B 自分は何者なのか、何をなすべきなのかという自己についてのゆれを克服し、自己確立についての確信を得ることが求められる。
- C いろいろなことがあったこれまでの人生のすべてを、自分のものとして、受け入れることが求められる。
- D 次の世代を支えていく子どもたちを生み、育てていくことに対し、積極的に関与することが求められる。

- ① アーB イーA ウーD エーC
- ② アーA イーC ウーB エーD
- ③ アーA イーB ウーD エーC
- ④ アーB イーC ウーD エーA
- ⑤ アーA イーB ウーC エーD
- ⑥ アーB イーA ウーC エーD

問3 3 自我同一性の拡散を表す語句として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。(2012年本試)

- ① 通過儀礼(イニシエーション)
- ② 自意識の過剰
- ③ 否定的アイデンティティ
- ④ モラトリアム人間
- ⑤ ピーターパン・シンドローム

問3 4 自己理解の手がかりとなるA～Dの用語と、具体例ア～エとの組合せとして正しいものを、次ページの①～⑧のうちから一つ選べ。(2011年本試)

- A 自己実現
- B 自我意識
- C 自己愛
- D 自我同一性

- ア 私は子どものころ、自分は家業に全く向いていないと思っていたけれど、仕方なしに手伝い始めた家業にいつの間にか打ち込むようになっていた。最近ではそれが自分に向いているのではないかと感じ始めている。
- イ 私と接した人はみんな私を好きになるようだ。しかし、私が友人たちのように簡単に恋人を作ったりしないのは、私に釣り合うような相手が身近にいるとは思えず、自分を大切にしたいからだ。
- ウ 私は内気で気の利かない人間だと思っているが、友人からは思慮深くて信頼できる人だと言われた。友人の意見をきっかけに、私という人間について改めて考えるようになった。
- エ 私は、大学病院の看護師として勤務しているが、将来は医療の恩恵を受けにくい離島や発展途上国で働きたいと考えている。そのために、現地で求められる看護技術や知識について、もっと研鑽を積んでゆきたい。

- ① アーA イーD ウーB エーC
 ② アーD イーC ウーA エーB
 ③ アーB イーA ウーC エーD
 ④ アーD イーC ウーB エーA
 ⑤ アーC イーB ウーD エーA
 ⑥ アーA イーD ウーC エーB
 ⑦ アーC イーA ウーB エーD
 ⑧ アーB イーC ウーD エーA

問35 自我同一性を見失っている心理状態の例として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2009年本試)

- ① 定年で、仕事を辞め、空虚さを感じていた時もありました。今、これまでの人生を振り返って自分史を書き始めています。思いのほか、たくさんの人にお世話になってきた自分を改めて感じています。
- ② 結婚を前提に特定の人と付き合っている友だちがおり、すごく生活が充実して

いるようにみえます。結婚を焦る気持ちも正直ありますが、今、仕事が充実しており、しばらく仕事をがんばろうかなと思っています。

- ③ 小学生の子どもがいます。学校に行ったり行かなかったりで、友だちとトラブルがあったのではないかと心配です。自分の会社での仕事も忙しく、大きな仕事の責任者となっています。いろいろと考えることが多いです。
- ④ 子どもも大学に入り、家を出ていきました。心の中にぽっかりと穴が空いた感じが続いています。自分の人生っていったい何だったのだろうか、自分の存在意義って何なのだろうか、いろいろと思い悩んでいます。

問36 発達心理学者のジェームズ・マーシアは、自我同一性の獲得の状態を、自分の可能性を模索し、迷い、苦闘する経験(「探索」)と、実際に何かに積極的に関わり取り組んでいるか(「関与」)という二つの観点から説明し、ア～エの四つに分けている。それを踏まえると、次のA～Dの進路・職業選択に関わる青年期の状況は、ア～エの四つの状態のどれにあてはまるか。その組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。(2008年本試)

- A 小さい頃から家業を継ぐことを期待され、他の選択肢を考えて悩むことなく、親の仕事の手伝いをしている。
- B 就職するか大学院に進むか悩んでいるが決めることができず、大学を卒業せずに留年することにした。
- C 将来の目標について考えたうえで法律に関わる仕事をしたいと思い、司法試験のための勉強をしている。
- D まだ将来について真剣に考えたことがなく、とりあえず目標もなくアルバイトで時間をつぶしている。
- ア 同一性拡散：「探索」の経験がないか、以前経験したが今は「探索」しておらず、

何にも「関与」していない状態

イ 早期完了：「探索」の経験がないが、何かに「関与」している状態

ウ モラトリアム：積極的に「探索」している最中だが、何にも「関与」していない状態

エ 同一性達成：積極的に「探索」した結果、何かに「関与」している状態

- ① A-ア B-イ C-エ D-ウ
- ② A-ア B-ウ C-イ D-エ
- ③ A-イ B-ア C-エ D-ウ
- ④ A-イ B-ウ C-エ D-ア
- ⑤ A-エ B-イ C-ウ D-ア
- ⑥ A-エ B-ウ C-イ D-ア

問37 青年期には、次の(1)~(4)に示すような青年期に特有な発達課題がある。この課題の達成に失敗した場合には、逸脱行動が出現することがある。ア~ウに示す逸脱行動は、それぞれ、主にどの課題の達成の失敗と考えられるか。その組合せとして最も適当なものを、下の①~⑤のうちから一つ選べ。(2006年本試)

- (1) 同じ年ごろの男女間のコミュニケーション能力を高めること。
- (2) 職業を選択して経済的に自立するための準備をすること。
- (3) 自分の身体の変化に気づき、理解し適応すること。
- (4) 社会の一員として適切に行動するために、価値や倫理の体系を学ぶこと。

ア 学ぶ意欲を喪失して学校にも行かず、漫然と日々を送っている。

イ 好きな異性に無言電話をかけたり、あとをつけたりする。

ウ 繁華街で遊んでいるうちに、万引きすることを覚えてしまった。

- ① A-(2) I-(3) U-(4)
- ② A-(4) I-(1) U-(3)
- ③ A-(2) I-(1) U-(4)
- ④ A-(4) I-(3) U-(1)
- ⑤ A-(2) I-(1) U-(3)

6 I am a Human — 「私」は「人間」である (文化人類学・自然人類学)

問38 ベルクソンは人間を「ホモ・ファール」と捉えているが、これに関連して、人間性の特徴を示す次のア~エの言葉は、A~Dのどれを表したものが。その組合せとして正しいものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。(2012年本試)

- ア ホモ・ファール イ ホモ・ルーデンス
- ウ ホモ・サピエンス エ ホモ・レリギオース

- A 人間は知恵をもち、理性的な思考能力をそなえた存在である。
- B 人間は道具を使って自然に働きかけ、ものを作り出す存在である。
- C 人間は自らを超えるものに目を向け、宗教という文化をもつ存在である。
- D 人間は日常から離れて自由に遊び、そこから文化を作り出す存在である。

- ① A-A I-B U-C E-D
- ② A-A I-C U-B E-D
- ③ A-B I-D U-A E-C
- ④ A-B I-A U-D E-C
- ⑤ A-C I-B U-D E-A
- ⑥ A-C I-D U-B E-A
- ⑦ A-D I-C U-A E-B
- ⑧ A-D I-A U-C E-B

問39 自己中心的な態度と共感的な態度とは、「他人」に対してのみならず「自然」に対しても考えられる。自然に対する人間の態度について述べた次の文章中の [a] ~ [c] に入る人名の組合せとして最も適当なものを、下の①~④のうちから一つ選べ。(2008年本試)

[a] は、事実から法則を導きだす方法を提唱して、「自然は服従することによらなくては征服されない」と言い、また [b] は、精神と物体とを明確に区別しつつ、「我々を自然の所有者にして主人となしうような実践哲学」があると云って、人間中心主義の考えから自然の支配を正当化した。これに対して、人間を工作人(ホ

モ・ファーベル)と定義する□cは、「哲学者は自然を仲間として扱い、……服従も征服もせず、共感しようとする」と述べて、科学的な知性による過度の自然支配を批判した。

- ① a ベーコン b デカルト c ベルクソン
- ② a ニュートン b パスカル c ホイジंगा
- ③ a ベーコン b デカルト c ホイジंगा
- ④ a ニュートン b パスカル c ベルクソン

問40 人間を「理性的動物」とする定義を再検討した思想家にカッシーラーがいる。カッシーラーによる人間の定義に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2004年本試)

- ① 組織を形成して他人と共存し、集団生活を営む社会的な存在。
- ② 自然に働きかけて物を作り、環境を変えていく実践的な存在。
- ③ シンボルを介して世界を理解し、芸術や宗教を作り出す存在。
- ④ 競争と表現を楽しみながら、遊びの中で文化を創造する存在。

問41 シンボル(象徴)を操る動物に関連して、これとは別の人間の定義を表す概念とそれを提唱した人物の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2002年追試)

- ① ホモ・ファーベル——デューイ
- ② ホモ・ルーデンス——ホイジंगा
- ③ ホモ・サピエンス——ウェーバー
- ④ ホモ・エコノミクス——マルクス

7 青年期総合問題

問42 青少年に人生の指針を与えてくれる先人の書物についての記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2006年本試)

- ① エリクソンは、青年期の課題として自我同一性の確立を提唱し、『幼児期と社会』では、その基礎となる乳幼児期の親子関係の重要性を指摘した。
- ② ルソーは、『エミール』で、「我々は二度生まれる」と表現し、青年を大人と子どもの中間の存在と位置づけ、青年期の若者を境界人と呼んだ。
- ③ 神谷美恵子は、『生きがいについて』で、自分の存在が誰かのため、何かのために必要だと自覚することで張り合いをもって生活できると述べた。
- ④ ガンディーは、非暴力・不服従の抵抗運動によって、インドを独立に導いたが、その実践の記録と生命尊重の思想は、『自叙伝』に示されている。

問43 青年期特有の悩みに関連して、このような心理的な状態を分析した次の人物ア～エと、それぞれの人物が強調したキーワードA～Dの組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。(2008年本試)

- | | |
|-----------------|----------|
| ア エリクソン | イ フランクフル |
| ウ シュブランガー | エ レヴィン |
| A 自我のめざめ | B 境界人 |
| C 人生周期(ライフサイクル) | D 生きる意味 |

- ① アーA イーB ウーD エーC
- ② アーC イーD ウーA エーB

- ③ アーC イーA ウーD エーB
 ④ アーD イーC ウーB エーA

問44 下記の文章の趣旨に照らして、居場所がないと感じる心理を説明する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2010年追試)

あなたは「自分の居場所がない」と感じたことはないだろうか。そのようなとき、自分自身に価値を感じられなかったり、自分を認めてもらえないと思いつつ悩んだりしたことはないだろうか。

グループのなかで会話がかわされていたり、何らかの役割が与えられたりしているだけでは居場所があることにはならない。居場所をめぐる感覚は、このような会話や役割の問題ではなく、青年期の発達課題でもある家族や仲間のなかでの自己に対する安定した見方の確立と深く関わっている。

「自分の居場所がある」とは、心地よく自分が居られるという感覚、ありのままの自分が他者に受け入れられているという感覚をもてることである。その感覚を獲得する方法の一つとして、他者との関係性をもう一度捉え直し、その関係性のなかで自分の価値を高める努力をすることを通じて、自己を再評価することが挙げられる。そうすることにより、自分の居場所を感じとることができ、マズローの言う「高次の欲求」を満たすことも可能になるのではないだろうか。

- ① 青年期に自分の居場所がないと感じるのは、本心を隠して他者と接する仮面を

かぶった人間関係を反映したものである。

- ② 青年期に自分の居場所がないと感じるのは、自他の評価を通してアイデンティティを獲得するという課題を反映したものである。
 ③ 青年期に自分の居場所がないと感じるのは、自分自身が意識していない集合的無意識を反映したものである。
 ④ 青年期に自分の居場所がないと感じるのは、他者からの評価に振り回されてしまう他人指向型を反映したものである。

問45 【難】「大人になること」の自覚は、(A)社会制度的に要請される次元、(B)個人の心身の発達に伴って変化する次元、(C)社会や他者への関心の高まりと人格的成長に伴って変化する次元においてそれぞれ深められる。次のア～カのうちで、A～Cに当てはまるものはどれか。その組合せとして、最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。(2006年追試)

- | | | |
|---------|----------|---------|
| ア 恋愛関係 | イ 就職 | ウ 選挙権 |
| エ 心理的離乳 | オ 国民年金加入 | カ 第二次性徴 |

- ① Aーウ Bーカ Cーエ ② Aーオ Bーエ Cーイ
 ③ Aーオ Bーイ Cーア ④ Aーウ Bーオ Cーア
 ⑤ Aーイ Bーア Cーカ ⑥ Aーウ Bーエ Cーカ

問46 現在の心理学の目標を次のア～オの五つに分ける考え方がある。このうちア、イ、オと、生活上の経験に関する事項A～Eとの組合せとして最も適当なものを、下の

①～④のうちから一つ選べ。(2007 年本試)

- ア 人間に生じたことの記述
- イ 人間に生じたことの説明
- ウ 人間に生じることの予測
- エ 人間に生じることの制御
- オ 人間に生じることを変えることによる生活の質の改善

- A 交通違反をした者に対して点数減点制度を導入し、規定点数以下になったら免許停止とする。
- B 各曜日1時間ごとに周辺の交通量調査を行い、これから行う工事の期間中に渋滞状況を考える。
- C 公園内のどの遊具で子どもたちが遊んでいるかを調べるために、それぞれの遊具について一定時間内での利用回数を測定する。
- D 様々な原因で欲求不満になったとき、スポーツなどで発散することを昇華と名づけて理解する。
- E 電車の乗降で混雑する駅で乗客の流れがスムーズになるように、混雑時に専用通路を設ける。

- ① アーC イーD オーE
- ② アーD イーB オーA
- ③ アーE イーB オーC
- ④ アーD イーA オーB

- 問1 ⑤ これは乳児期
問2 ③
問3 ①
問4 ③ ①②はもともと重要 ④は現在日本では見られない
問5 ③ 定年制延長はあっても、廃止には至っていない
問6 ②
問7 ③
問8 ⑤
問9 ③ 自己決定しているのでモラトリアムではない
問10 ④
問11 ① ハラスメントは危害を受けるので安全欲求
問12 ④
問13 ⑤
問14 ③
問15 ①
問16 合理化 ① 昇華 ⑥ ②投射 ③反動形成 ④退行 ⑤抑圧
問17 ③
問18 ① ②退行 ③投射 ④同一視 ⑤合理化
問19 ③ ビックファイブ理論は性格検査用語。
問20 レヴィン⑥ マズロー① ユング② (③エリクソン ④ルソー ⑤ピアジェ)
問21 ① ユング
問22 ④ イ ニーチェ エ 集合的無意識は先天的
問23 ②
問24 ⑤
問25 ③
問26 ④
問27 ④
問28 ④ ①「鏡に映る自我」は米の社会学者クーリーの用語 ②フランクフル ③ピアジェ
問29 ②
問30 ① 脱中心化は、ピアジェ
問31 ④ ①身体ではない ②児童期 ③乳児期

- 問32 ①
問33 ①
問34 ④
問35 ④
問36 ④
問37 ③
問38 ③
問39 ①
問40 ③
問41 ②
問42 ② 境界人=レヴィン 『幼児期と社会』はエリクソン
問43 ②
問44 ②
問45 ② Bは心身の発達、身体ではない。
問46 ①